

【出題意図】

本文は沼野雄司著『現代音楽史：闘争しつづける芸術のゆくえ』の第3章「ファシズムの中の音楽」からの抜粋である。ファシズムという全体主義が自らの価値観を絶対視し、それとは相容れないものを芸術の分野においても抹殺しようとした歴史が述べられている。自由で多様な解釈を真髄とする芸術を特定のイデオロギーにより分類しようとすることからして困難を極め、そうした無理な政策がもたらす滑稽さや矛盾、さらにそれに翻弄される音楽家の悲喜劇にも言及している。ほぼ1世紀前の遠く離れたヨーロッパにおける事例ではあるが、受験生には多様性の問題に関心を持ち、文章から理解したことを、想像力を用いながら現代社会にあてはめ思考・判断・表現することを求めている。

【採点のポイント】

主に次の点について評価する。

- ・ 本文を理解したうえで解答しているか。
- ・ 設問にある「メリットとデメリット」のそれぞれが明確に述べられているか。
- ・ 記述が論理的で説得力があるか。